

國
漢
社
會
民
治
黨
防
制
濫

1598



獨逸國社會黨防制法

天佑ニ依テ獨逸國帝兼宇滿生國王ナル維廉茲、獨逸國參議院及國會ノ許諾ヲ得タル上獨逸全國ノ名ヲ以テ左ノ條ヲ頒布ス且トク之ヲ遵奉スヘシ

第一條

凡ソ社會黨主義社會主義若クハ平均黨主義ヲ固執シテ直ニ今日ノ國家若クハ社會秩序ノ崩壞ヲ規圖スル講社ハ之ヲ禁止スヘシ其他各種講社ニシテ陰ニ社會黨主義社會主義若クハ平均黨主義ヲ固執シ今日ノ國家若クハ社會秩序ノ崩壞ヲ規圖スル形跡ノ顯然トシテ其勢恰ニ公安殊ニ各種人民社會ノ協和ノ妨害スルカ如キ中ハ則チ亦前例ニ同シ各種結合ニ亦講社ト同視ス

大正十一年四月
大隈侯爵寄書

第二條

記入産業講社官簿ノ官簿ニ記入タルモノノ雖モ千八百六拾八年七月四日公布官産講社及ヒ經濟講社條例第一條及ヒ第三十五條中第二節ノ場合ニ当ルモノハ亦本法ヲ準用スヘシ
記入救助積金講社官簿ニ記入タルモノハ百七十六年四月七日公布記入救助積金講社條例第九條ノ場合ニ当ルモノハ亦齊シク本法ヲ準用スヘシ

第三條

獨立ノ積金講社即チ官簿ニ記入セラルモノニシテ其中合規則ニ從ヒ社員交互ノ救助ヲ目的トスルモノハ第一條中第二節ノ場合ニ當ルトモ直ク之ヲ禁止セス
シテ先ツ特另ニ官ノ督察ヲ受ケシムヘシ

右等獨立講社教箇相聯合シ而シテ其一社ニ於テ上第一條中第二節ニ掲載シタル形跡ノ顯然タル片ハ則チ命シテ本社ヲ其聯合中ニリ退除セシメ而シテ之ヲ督察スルヲアルヘシ
一 講社ノ支社ニ於テ同形跡ノ顯然タル片モ亦此支社ノ分離セシメテ之ヲ督察スヘシ

第四條

督察ノ任ヲ兼ケタル官衙ハ左ノ權限ヲ有ス
一 講社ノ毎集會ニ臨席スル
二 總會ヲ開キ之ヲ統御スル
三 簿冊書類及ヒ會計実況ヲ検査スル
四 並ニ社ノ事情ヲ推問スル
四上第一條中第二節ニ掲載スル陰謀ヲ成功セシト

スルカ如キ決議ノ実施ヲ禁得スル
五相当ノ人物ヲ選抜シ又ハ若クハ其他統理役ノ
事務ヲ保時辨セシムル
六會計事務ヲ保管シテ之ヲ管理スル

第五條

一 講社ノ總會社長若クハ其他ノ統理役員督察官衙ヨ
リ其権限内ニテ命令シタル条件ニ違背スルカ或ハ督
察ニ附シタル后ニ至リ尚ホ該社ニ於テ上第一條中第
二節ニ掲載シタル形跡ノ顯然タルハ則チ該諸社ヲ
禁止スヘシ

第六條

禁止ノ令及ヒ督察ノ命ヲ下スハ官治警察廳縣廳及
府廳ノ權内ニアルモノトシ外國講社ヲ禁止スルハ

獨逸宰相ノ權内ニアルモノトス

禁止ノ令ハ悉ク獨逸國公文誌ニ掲載スヘシ但シ官治
警察廳ヨリ令スル禁止ハ此公文誌ノ外尚ホ該廳ノ公
文ヲ載スルニ定コリタル地方新聞誌ニ掲載レテ之ヲ
公告スヘシ
凡ソ禁止ノ令ハ獨逸全國ニ於テ其効カク有レ且ツ普
ク各支分社及ヒ名目新クシテ其事實旧ニ同レキ講
社ニ涉ルヘシ

第七條

禁止ノ令ヲ下シタル日ハ則チ該官廳ヨリ講社ノ會計
及ヒ社用ニ供スル各物件ヲ取押フヘシ
凡ソ禁止ノ終局ニ至リタル日ハ則チ該官廳ヨリ
謂フ該官治警察廳ノ指令ヲ行ハズニ至リタル日
謂フ該官治警察廳ノ指令ヲ行ハズニ至リタル日

当ノ人物ヲ選拔シテ社務ノ取
リノ且ク之ヲ監視シ又競賣
氏名ヲ公告スヘシ
社則若クハ法律ニ總會ノ決議ヲ要スルトアラレシ禁
止ノ終局・至リタル后ハ行政府ノ決議ヲ以テ之ニ換
用スヘキモノトス
競賣シタル社有財産ハ社則若クハ法律ニ照シテ之ヲ
費用スヘシ但シ社外人負若クハ社負ノ社・對シテ請
求権ヲ有スル如キハ此例ニアラス
禁止ノ終局・至リタル時期ハ則ケ解社若クハ閉社(即
チ納金停止)ノ時期ト視做スヘシ
警察廳ノ命令ニ不服ナル社ハ唯管轄廳ニ許願スレバ
許スノコト

第八條

官治警察廳ヨリ發スル禁止及ヒ督察ヲ受ケシムル命
令ハ理由ヲ詳記シタル令状ヲ社長(但シ社長ノ内國ニ
居ル片ニ限ル)ニ下附シテ之ヲ告知スヘシ若シ社長此
令状ニ不服ナルハ許願スルヲ許ス(第廿六條)
許願ハ令状ヲ下附シタル后一週日內ニ其之ヲ發シタ
ル官廳ニ就キ申告スヘシ
許願スルトト決シテ開社スルヲ得ス

第九條

凡ソ集會ニシテ社會民治黨主義社會黨主義若クハ平
均黨主義ヲ固執シ今日ノ國家若クハ社會秩序ノ崩壞
ヲ視圖セシトスル陰謀ノ顯然タル片ハ則ケ之ヲ解散
ヒシムヘシ
凡ソ集會ノ舉動ニ依リ前節插或套謀ノ成功ヲ翼賛ス

ルノ定旨タルヲ推知スヘシハ則チ之ヲ禁止スヘシ
公衆ノ集會及ヒ行列モ亦此法ニ同視ス

第十條

前条ノ禁止ヲ令シ及ヒ解散。命スルハ警察廳ノ權内
ニ在ルモノトス

其不服ナル者ハ唯管轄廳ニ訴願スルヲ許スノミ

第十一條

凡ソ出板書ニシテ陰ニ社會民治黨主義社會黨主義若
クハ平均黨主義ヲ固執シ今日ノ國家若クハ社會秩序
ノ崩壞ノ規圖スル形跡顯然トシテ其妨恰モ公安殊ニ
各種人民社會ノ協和ヲ妨害スルカ如キハ則チ之ヲ禁
止スヘシ

追号出板書ニ在テ本法ニ照シ既ニ其一号ヲ禁止シタ

ル中ハ則チ又此禁止ヲ後号ニ延及スルヲ得ヘシ

第十二條

前條ノ禁止ヲ令スルハ官治警察廳ノ權ニ在ルモノト
シ内國ノ追号出板書ヲ禁止スルハ其出板地方官治警
察廳ノ權ニ屬スルモノトシ又外國ニ於テ出板ス追号
出板書ノ配達ヲ禁止スルハ獨逸宰相ノ權内ニ歸スル
モノトス

此禁止ハ第六條第二節ノ方法ニ準シテ公告ス可シ而
シ全聯邦内ニ其効カアルモノトス

第十三條

官治警察廳ノ命令ニ係ル出板書禁止ハ其理由ヲ明記
セル令狀ヲ以テ板權者或ハ編輯者ニ告知ス可シ又一
時出板書籍ノ禁止ニ其書中ニ明載セシ著述者國內ニ

居在スル以上ハ禁止ヲ告知シ
無シ
板権者編輯者著述者ニ在リ以テ令状ニ不服ナルハ訴願
願(第廿六條)スルヲ得ヘシ
其訴願ハ令状ヲ交附セシ後チ一週日内ニ其指令ヲ兼
ケシ官廳ニ提出ス可シ
訴願スルトモ決レテ令状ノ実行ヲ停ム可ラス

第十四條

禁止シタル出版物書ノ尚ホ世ニ發行セルトスル令ハ
悉ク之ヲ取押ス可シ
取押ノ効力ハ都テ出版用ノ板
木板型等ニ及ホスリヲ得可シ但シ一時出版書ニ限リ
干係者ノ申立ニ據リ其有害タル文章ヲ抹殺セシムヘ
シ
取押ヘシ出版物木板型等ハ禁止ノ終局ニ至リ

タル後ケ再用シカタキ程ニ毀ツ可キモノトス
不服ノ訴願ハ只管轄廳ニ提出スルヲ許ルス

第十五條

警察廳ハ第十一條ニ記載スル種類ノ出版書并ニ其出
板ニ用フル板木板型等ヲ禁止ニ先ツテ假リニ取押ス
ルノ權ヲ有ス
其取押ヘシ出版書ハ廿四時間内ニ官
治警察廳ニ送致ス可シ
於此該廳ハ直チニ取押ノ放解
ヲ令スル欵或ハ一週日内ニ禁止ノ令ヲ發ス可シ
若シ
此期日内ニ禁止ノ令ヲ發セサル時ハ其取押ハ消滅ス
ルモノトス
而シテ各書冊板木板型等悉ク之ヲ放還スヘ
シ

第十六條

社會民主治黨平均黨ニ主義ニ由リテ今日ノ國家若クハ

社會ノ秩序ノ崩壞セリノ見ゆニ醸金ヲ募集スル
一并、斯ノ如キ醸金ノ寄附ヲ公然奨励スレバ都テ
警察上之ヲ禁止ス可シ而シテ其禁止ハ公告ス可シ
不服ノ訴願ハ唯管轄廳ニ提出スルヲ許ルス

第十七條

何人ニ限ラス禁止ノ講社(第六條)ニ社員タル者或ハ斯
ノ如キ會社ヲ為シニ周旋スル者ハ五百、コルク以下ノ
罰金ヲ課シ若クハ三ヶ月以内ノ禁獄ニ処ス可シ又禁
止ハ集會(第九條)ニ列席スル者若クハ警察官ノ解散ヲ
命ゼシ集會(第九條)ヨリ即時ニ退去ラサル者モ亦同
刑ニ處ス可シ
斯ノ如キ會社又ハ集會ノ社長頭取取締人代理人演説
者収金者或ハ他人ニ來會ヲ勧誘スル者ハ一ヶ月乃至

一ケ年ノ禁獄ニ處ス可シ

第十八條

何人ニ限ラス禁止ノ會社又ハ禁止ノ集會ニ家室ヲ侵
與スル者ハ一ヶ月乃至一ケ年ノ禁獄ニ處ス可シ

第十九條

何人ニ限ラス禁止ノ出板物(第十一條第十二條)又ハ假
リニ取押ヘタル出板物(第十五條)ヲ播布スル者其播布
ヲ止メサル者或ハ再ヒ出板スル者ハ一ヶ月以下
ノ罰金ヲ課シ若クハ六ヶ月以内ノ禁獄ニ處ス可シ

第二十條

何人ニ限ラス第十六條ニ違反シテ指令シタル禁止ニ
違反スル者ハ五百、コルク以下ノ罰金ヲ科スル若クハ
三ヶ月以内ノ禁獄ニ處ス可シ

其他右禁止レタル事 金募集差クハ其奨励ニ依テ領取
シタル金額物品ハ其現物差クハ價金ヲ以テ該募集地
ノ貧院ニ没入ス可キモノトス

第廿一條

何人ニ限ラス公文誌(第六條第十二條)ニ依テ禁止ノ公
告セシ後クニ當タリ及令ニ其公告ヲ知ラサルトモ第
十七條十八條十九條ニ於テ禁止スル條件ノ一項ヲ犯
ス者ハ百五十、マルク以下ノ罰金ヲ科スル放若クハ禁
錮ニ処ス可シ
又禁止ノ公告アリシ後ク第十六條ニ憑據シテ指令レ
タル禁止ニ違背スル者ハ亦同刑ニ処ス可シ而メ爰ニ
第二十條本文ノ法ヲ適用ス可シ

第廿二條

第一條第二節ニ記載スル陰謀ヲ夾ミ其懲遏ヲ以テ自
己ノ職業トスル者ニシテ第十七條ヨリ第廿條迄ニ違
背シテ処刑スル中ハ羈絆刑ヲ課シタル上高キ居留地
限定ヲ受クヘキヲ申渡ヌ可シ
右申渡ニ基キ官治警察廳ハ被刑人ニ某区或ハ某邑
村ニ居留スルコトヲ禁止スルヲ得可シ但シ其本籍住地
ハ本人既ニ六ヶ月以上居住セサル中ガ限り之ヲ禁止
スルヲ得可シノ官治警察廳ハ外國人ヲ聯邦ノ疆土ヨ
リ放逐スルコトヲ得可シノ不服ノ訴願ハ只管轄廳ニ提
出スルヲ許ス
凡ソ之ニ違背スル者ハ一月乃至一ケ年ノ禁獄ニ處
ス可シ

第廿三條

第二十二條ノ第一節ニ違背スルハ客舎營業酒樓營業
燒酒或ハ酒精ノ小賣ヲ營業スル者并ニ沽棧書肆債本
ヲ營業スル者書籍發覽所ノ守主ハ羈絆刑ヲ課シ
上尙ホ其營業ヲ禁止スルコトヲ得可シ

第二十四條

第一條ノ第二節ニ記載スル陰謀ヲ翼賛スルコト業ト
スル者又ハ此法律ノ定則ニ基テ巡刑セラレタル者ハ
營業上若クハ營業外ノ論ナク都テ出扱物ヲ發行スル
權利并ニ出扱物ヲ以テ行商スル權利ヲ官治警察廳ヨ
リ剝奪スルコトヲ得可シ
不服ノ訴願ハ只管警察廳ニ提出スルコトヲ許ルス

第二十五條

何人ニ限ラズ第廿三條ニ照シテ申渡サレタル判決或

ハ第廿四條ニ基キタル指令ニ違背スル者ハ一千、コ
ク以下ノ罰金ヲ科スルカ又ハ禁錮若クハ六ヶ月以内
ノ禁獄ニ処ス可シ

第廿六條

第廿八條第廿三條ノ場合ニ起ル不服ノ訴願ヲ裁決スル
為メ委員ヲ設ク可シ○其委員ハ四名ヲ聯邦參議院ノ
議員中ヨリ撰ミ五名ヲ他選國若クハ各聯邦最上法廷
ノ法官中撰擇ス可シ
右五員ノ撰擇ハ此法律執行中及ヒ其ノ法官ノ在職
中働カザ有スルモノトス
國帝ハ右委員ノ長官ヲ命ジ且該委員中ヨリ右長官
ノ代理ヲ任ス可シ

第廿七條

該委員ハ既ニ五名ニ集議ニ於テ判決スルノ權アリ而
ノ其中魁々モ三名ハ法官ニ委員タルヲ要クノ訴願ノ
判決ニ先クテ原告人ヲ口頭上又ハ書面ヲ以テ訴
件ノ理由ヲ決述セシム可キ委員ハ十分ニ証拠ヲ求
メ殊ニ證據人及ヒ監定人ヨリ誓詞ヲ取り又ハ國內或
ハ聯邦ノ衙門ニ照會シテ該誓詞ヲ取ラシムルノ權ヲ
有ス可キ證據人又ハ監定人ト為テ盟誓ス可キ義務
ニ関レ并ニ此義務ヲ怠ルヲ以テ刑ヲ加フル如キハミ
テ委員本局又ハ其照會ヲ受ケタル衙門处在ノ地ニ行
ハルハ訴訟法ヲ準用ス可シ
其判決ハ委員ノ專断スル所ニ任セ且ツ終局ノモノト
ス
其他委員ノ行務ハ該委員ノ起草シタル章程ニ從フヘ

レ但レ此章程ハ聯邦參議院ノ認可ヲ受ケルヲ要ス

第廿八條

第一條ノ第二節ニ記載スル陰謀ニ由リ公安ヲ妨害セ
ラレシ市區邑村ニ在テハ聯邦ノ中央官衙ヨリ聯邦參
議院ノ認許ヲ經テ一年以内ノ間左ノ制令ヲ布行スル
ヲ得可シ但レ其邦法上已ニ斯ノ如キ制令ヲ布行スル
ヲ得ル時ハ聯邦參議院ノ認許ヲ經ルニ及ハス
(一)ルヲ集會ヲ開ク前必ス警察廳ノ許可ヲ受ケシムル
事但レ聯邦議院若クハ各邦議院ノ議員ヲ撰フノ目
的ヲ以テ集會スル者ハ此限ニ非ス
(二)公路街道街巷又ハ其他都ラ公場ニ於テ出板物ヲ
貼附スルヲ禁スル事
(三)公安若クハ牛牽スヘキ嫌疑アル者ハ其市區邑

村ニ居在スル者 禁止スル事

(四) 武器ノ所有携帶賣買ヲ禁止制限若クハ豫メ其定則
ノ設立ヲ事

都テ上文ノ定規ニ基テ布行スル制令ハ当時又ハ次期
ニ至リ之ヲ聯邦議院ニ報道スルヲ要ス右布行ノ制令
ハ聯邦公文誌ニ掲ケ且ツ官治警察廳ノ布令ヲ公掲ス
ル成規ニ依テ之ヲ公告ス可シ

何人ニ限ラズ此制令若クハ此制令ニ基テ下シタル命
令ヲ知テ違背スル者若クハ諛制令ノ公告アリレ後チ
之ヲ犯ス者ハ一千モルノ以下ノ罰金ヲ科スル歟若ク
ハ禁錮或ハ六ヶ月以内ノ禁獄ニ処ス可シ

第廿九條

官治警察廳及警察廳ノ符号ハ各聯邦ニ於テ何レノ街

門タルヤハ聯邦ノ中央政府ヨリ之ヲ公告アル可シ

第三十條

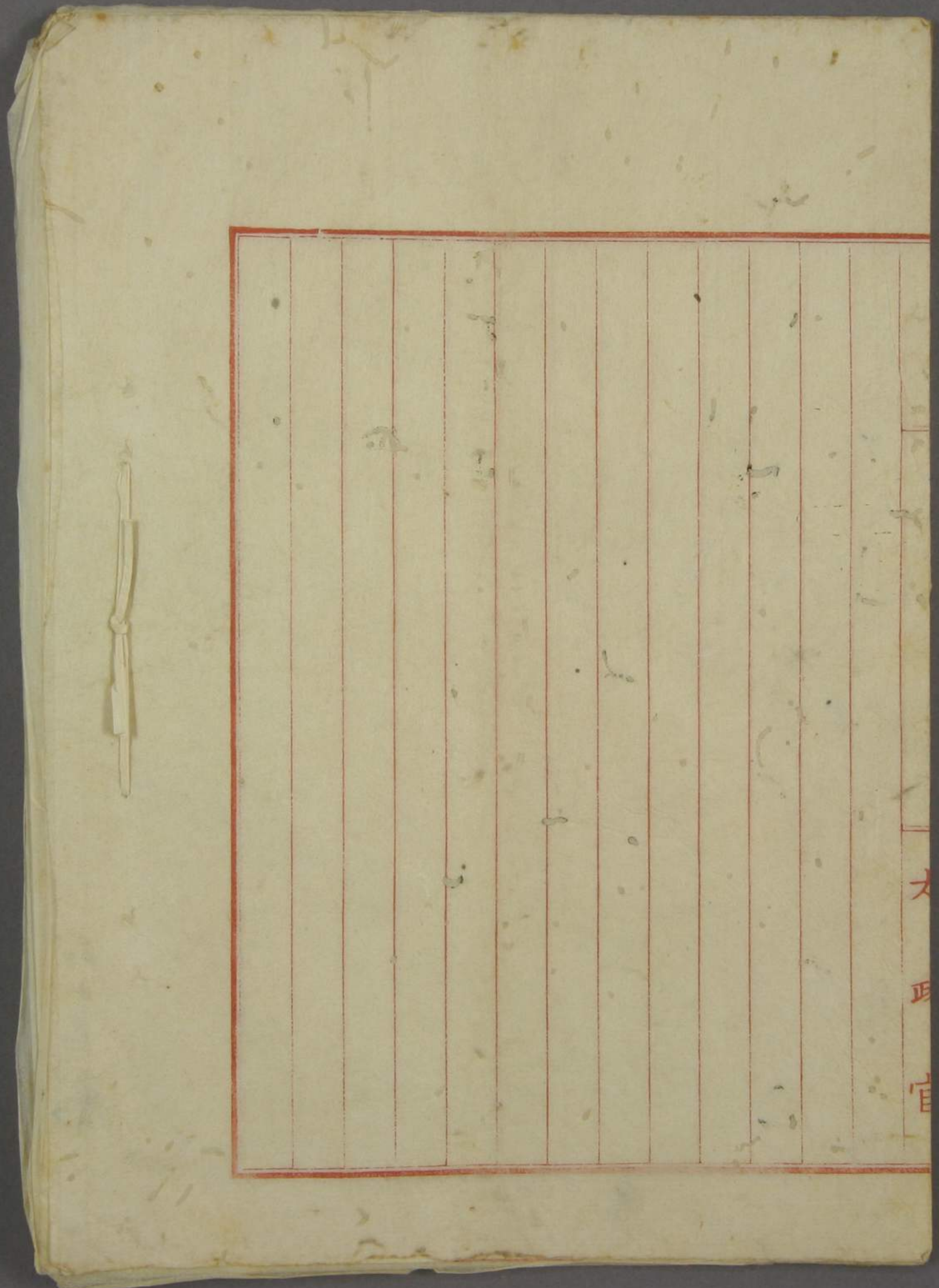
此法律ハ公布ノ当日ヨリ起テ千八百八十一年三月三
十一日迄施行スヘキモノトス

Blank manuscript page with vertical red lines and faint bleed-through from the reverse side.

Blank manuscript page with vertical red lines and faint bleed-through from the reverse side.

大
文
官

大
理
官



大
正
官